

ドック検査の豆知識 腫瘍マーカー検査

腫瘍マーカーとは、
がん細胞の目印（マーカー）になる物質の総称です

どのように検査するのですか？

「がん」ができると、健康なときにはほとんど見られない特殊な物質が、その「がん」により大量につくられ、血液中に出現してきます。

この物質を「腫瘍マーカー」といいます。

「腫瘍マーカー」は、「がん」の発生臓器と強い関連性を持つ特徴があるため、血液中のこの物質が一定の量を超えたときは、「がん」がある可能性が推測されます。

この検査は、その他の血液検査の採血と一緒にできますので、身体に大きな負担もなく手軽に受けることができ、がん検診では大変有用です。



男性腫瘍マーカー(PSA:前立腺特異抗原、prostate specific antigen)

PSAは、前立腺に特有の腫瘍マーカーで、前立腺がんや前立腺炎、前立腺肥大などで数値が上昇します。

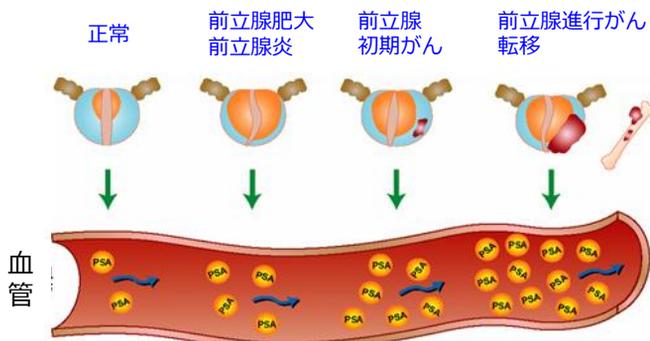
前立腺以外のほとんどの「がん」では、ある程度進行した状態にならないと、腫瘍マーカーには現われません。

しかし、例外的に前立腺がんだけは、早期からPSAという腫瘍マーカーが増加するため、前立腺がんの早期発見に大変有用です。

女性腫瘍マーカー(CA125 : carbohydrate antigen125)

CA125は、卵巣がん診断の基本となる腫瘍マーカーで、卵巣がんで約80%の陽性率を認めます。

子宮内膜症(しきゅうないまくしょう)や子宮腺筋症(しきゅうせんきんしょう)などの良性疾患や性周期、妊娠などにより数値が上昇するため、「がん」か否かの判定には注意が必要です。



「前立腺がん」と「PSA」の関係

早期発見
早期治療